

安佐南区役所芸術展示 作品解説

【本作品の展示期間：2022年3月5日から約1年間】

日本画展示作品「土飾り」

吉村 織那 (YOSHIMURA Rina)

2021年 一辺53cm 正三角形パネル

＜材質＞雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、箔



私はよくサボテンと土を関連付けて制作します。今にも土から這い出そうな、サボテンの不思議な迫力を目の当たりにすると、彼らがまるで土の化身のように思えるからです。

そして、土飾りとは棘のことを指します。サボテンの棘は荒々しく、危険な印象として見られがちです。しかし、よく見ると金色や赤、白など美しい色をしており、その形も多彩です。それはまるで、サボテンがその身を着飾っているかのような魅力を感じます。

油絵展示作品「冬毛の犬」

三坂 日奈子 (MISAKA Hinako)

2021年 P8号

＜材質＞キャンバスにアクリル



人間が衣替えをするようにイヌも換毛をします。秋頃から毛が抜け落ち、冬毛に生え変わり、夏にはあんなに細かった子が冬になるとびっくりするほど大きくなっていたりします。撫でると、温かい空気がふわふわの毛の中からふわっと染み出てきます。温かい空気を蓄えながら歩く姿は、とても可愛らしいです。イヌが身に纏う温かさを思い出しながら描きました

工芸展示作品「^{やもり}守宮」

2022年 65mm×120mm×128mm

<材質> 木材、漆、錫紛、銀紛



佐々木 舞 (SASAKI Mai)

ヤモリをあしらった切り株の形の棗。

茶道を習っていた経験から茶器を作りたいと思いついて制作しました。

ヤモリをあしらったのは私が爬虫類好きであり、爬虫類があしらわれた茶器を見たことがなかったからです。ヤモリがいても違和感がなく、棗を茶器としてだけでなく小物入れや置物としても使えるようにしたかった思いから切り株の形にデザインしました。

彫刻展示作品「Night Carrier」

2021年 72mm×135mm×87mm

<材質> 樟にアクリル着彩、金箔、ネイル塗料



三松 拓真 (MIMATSU Takuma)

我が家では車にニックネームを付ける習慣があり、父の愛車が動物のように見える

というきっかけから、車と動物が交わった造形の作品を木彫で制作しています。

この作品は夜の街を走るタクシーがモチーフとなっています。

家のベランダから見た、路上で手を挙げる利用者の元まで寄ってくるタクシーが私には、まるで黒い動物が餌を求め、飼い主の元まで駆け寄ってくる姿に思えました。